NEWS LETTER
通巻第20号
22 春

奄美 シマの自然と文化を 世界へ！

1ｐ　世界自然遺産登録
2ｐ　国立公園５周年
3ｐ　＋トピック
4ｐ　へぇ～講座ほか

発行：環境省奄美群島国立公園管理事務所

奄美大島と徳之島が 2021年7月26日 世界自然遺産になりました

世界遺産とは世界遺産条約で決められた『人類共通の財産』です。

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島は、令和３年５月にIUCNから登録妥当の勧告を受けたのち、令和３年７月26日、世界遺産委員会にて一覧表に記載され、「世界自然遺産」となりました。これまで、延期勧告や世界遺産委員会の延期など様々なことがありましたが、皆様の努力が実り世界自然遺産となったことを改めてお祝い申し上げます。おめでとうございます！

【指摘事項と今後の課題】

世界自然遺産は、登録されたら終わり、ではありません。

世界遺産委員会決議には、以下の事項について対応要請がありました。

a) 観光管理
b) 絶滅危惧種の交通事故死を減少させるための交通管理措置の有効性見直し・強化
c) 自然に基づく技術や再生アプローチの採用に移行するための、包括的な河川再生戦略の策定
d) 緩衝地帯での森林伐採の制限。遺産地域内伐採ゼロ

島の宝が、世界の宝であり続けるためには、その価値が失われることがないよう、島の自然を守っていく必要があります。上記事項については、環境省も、関係機関と連携しつつ全力で取り組んで参りますが、島の自然を守るには、一人一人が自然を思いやった行動をとることが不可欠です。ポイ捨てをしない、生き物を無暗に捕らない、生き物に気をつけてゆっくり走る・・・世界に誇れる自然と共生するために、できることから始めてみませんか。

一問一答 島ぬ知恵

いねじいちゃんのへぇ～講座

1 じいちゃーん、こんなの拾った♪これなに？

またもや出演 りっちゃん

あげっ、アダンの実よー海岸に生えてるパイナップルみたいのがあるでしょ？

大すき～♡

2 もうカラカラ。かれてるねー。

ぶっぷぅー

違うのよー。このカラカラからちゃんと根っこも芽もでるのよー♪

ふ～ん…

じいちゃんのシマも昔はアダンのトンネルくぐって浜におりてたのよー。ばあちゃんがよく話すでしょ。

なまにしあらんたっとー。（今みたい（護岸）じゃなかったよー。）
アダンばくぐてい（アダンをくぐって）
ふうせぬあてい（大きな岩があって）
きょらかん浜あたっとー（きれいな浜だったのよー）

久しぶりの出演 いねばあちゃん

3 じいちゃんも、昔は固いコンクリートのほうがアダンの林より、波風に強くて、いいはずち思っとったよー。でも何十年もたって、いろんな研究が進んで、自然を活かしたほうが防災面でも景観面でもいいことがあるち分かったわけ。アダンの林は、波も風も柔らかく受け止める。だからアダン林を復活させようち実から植える実験もしてるのよー。シマの原風景を復活させる新しい時代の始まりじゃないかい♪

2020年アダン林再生実験イベントに参加してくださった皆さん（環境省助成事業）

へ～ふ

※アダンの実をいろいろな条件で植えてみたところ、10cm～20cmほど砂がかぶったところが一番よく育っていました。

ひらめき～♡　ぐちゃ

新しい時代すぎ（苦笑）　りっちゃん

りっちゃんはパイナップル植えよっ♪

Eco-DRR（生態系を活用した防災・減災）
ち言うみたいね。それと、昔は良かれち思ったことを、再度検証することを「時のアセス」ち言うみたいよ。

コラム　エコツーリズムの実現に向けて

奄美大島では、令和３年10月29日より、市道三太郎線周辺における夜間利用ルールの試行を開始しました。ルールでは、事前予約制による夜間の通行可能台数の制限、走行速度の時速10km以下への制限、野生動物への配慮の仕方や他の利用者とのコミュニケーション方法の明確化などを定めており、自然への影響軽減と利用の質の向上の両立を目指しております。あえて「試行」と表現しているように、運用状況をモニタリングしながら、順応的にルールの改善を行っていく予定です。

編集後記

このニュースレターも今号でめでたく通巻第20号！　第１号の発行は2009年。そんなニュースレターに「いつもいねじいちゃんのへぇ講座」を楽しみにしています」というとっても嬉しい年賀状をいただきました。水・空気・食べ物など私たちの島暮らしは自然に依存するしかありません。そこから育まれる文化も含め、自然との付き合い方を、これからもお伝えできたらと思う黒豚なのでした。感謝！　（黒豚編集長）

連絡先：環境省奄美群島国立公園管理事務所
電話：0997-55-8620　編集：奄美自然学校

特集

2017年3月7日に指定された奄美群島国立公園は、
2022年3月7日を持ちまして指定5周年を迎えました！

奄美群島 国立公園 5周年

特異な生態系と、時代の波や自然との関わりの中から育まれてきた独自の文化。指定5周年特集として、奄美群島国立公園について、様々な方にその魅力を聞いてみました。昔からシマの自然に慣れ親しんだ島内出身の方にも、新たな発見があるかも!?

■与論島

I

■写真：一般社団法人 ヨロン島観光協会

与論島の国立公園エリアでは、干潮位に潮が引くことによって、海上に現れる砂地「百合が浜」が非常に特徴的です。島の周辺は発達したサンゴ礁のリーフに囲まれていますが、特に東海域では、海岸からリーフまでの距離が約1.2kmにも及び、広大な礁池が存在します。普段、サンゴ礁保全活動を行う一貫でダイビング調査を行うことがありますが、リーフの外側には美しいサンゴ群落に南国の熱帯魚が生息していて、比較的高い確率でウミガメに遭遇することも出来ます。長い年月をかけて築かれたサンゴ礁は、リーフの内側に広がる礁池を穏やかな海況に保つため、初心者でも安心して様々なマリンスポーツを楽しむことができます。誰でも受け入れてくれる海　が、与論の魅力だと思います。

【文：NPO法人海の再生ネットワークよろん　事務局長　池田香菜】

J

■奄美大島

B

島には、毒蛇ハブや妖怪ケンムンが棲んでいるわけで、そこら辺にみえるアダンやソテツなどの植物も緊張感を漂わせているわけで。そう、包んでいるのは独特な緊張感。この環境で生きぬいてきた人々の、たくましい知恵に魅力を感じます。奄美群島の歴史と文化は、薩摩・琉球とのつながりの中で熟成されてきました。

A

日常の言葉や唄はもちろん、行事や祈りの風景のなかに、私たちの個性がもっと見つかったらいいなぁと思います。まるで謎解きのような、自分探しのような、好奇心の誘いが潜んでいるのも、この群島の国立公園としての魅力かと。国立公園の島々では、人々は自然に癒されてのんびり暮らしているとイメージするなかれ。好奇心をもって緊張感を楽しむ、そんな奄美スタイルの海山とつきあう暮らしは、 唄い、学び、遊び、と一っても忙しいのです。【文：瀬戸町立図書館・郷土館 係長　町健次郎】

■沖永良部島

G

沖永良部島は琉球石灰岩の島。鍾乳洞がとても多く、最近ではケイビングが観光を牽引しています。鍾乳洞の中は白くキラキラして美しいの一言に尽きます。海は黒潮の関係で波が強くシュノーケルは危ないけれども、生物相がとても豊かなのが特徴的です。歴史と文化は、琉球文化の影響を色濃く残しています。世之主の墓に代表されるトゥール墓はその代表で、琉球石灰岩でできた島の自然と密接に関係しています。湧水が約150カ所と多いのも特徴的で、島の自然から生まれる水が人々の生活を支えてきました。小さい島に海から山まで程よくまとまっていて、それでいて手つかずの自然が多く残っています。何もないからこそ素晴らしい、まさに島らしい島です。知ることが愛すること。知らないと興味が湧かないけど、知ることによって興味が湧いてきます。ぜひ島のことを知り、ゆっくりと楽しんで、癒やされて欲しいです。

H

【文：沖永良部エコツアーネット　山下芳也】

■徳之島

奄美群島国立公園は、自然と島民の距離感がとても近いことが特徴的です。例えば、徳之島に住む私の家から山手に5分歩けばアマミノクロウサギに会え、海手に10分歩けばウミガメの産卵に立ち会えます。もはや私自身が国立公園の中に住んでいると言っても過言ではないですね。これだけ自然との距離が近いからこそ、この国立公園の特徴である環境文化が生まれたのだと思います。昔は自然を活用して生活していたが、今はその継承がされなくなり、島も都会と同じ画一的な生活になってきていると思います。それは島のアイデンティティがなくなっているということで、残念なことです。環境文化も自然とともに後世に継承すべき島の宝ですから。よく島には何もないと言われるけれども、「何もない」というのは「都会にはないものがある」ということ。国立公園5周年ということで、今後国立公園が歴史を刻むとともに島の自然と環境文化が残り続けていくことを願っています。

【文：NPO法人　徳之島虹の会　理事長　政武文】

E

F

■喜界島

C

国内の離島に30島以上足を運び・仕事でも全国転勤8回を経験し、全国津々浦々を見てきた(つもりの)私がこんな景色は今まで見た事ない！と思わず息をのんで見入ってしまったスポットが喜界島の「百之台」でした。喜界島で最も早くサンゴが隆起してできたとされる高台から見下ろす景色は、他に山などの遮るものが全く無いので喜界島の東部～北部を一望する事ができます。その景色は雄大の一言です。百之台から見える風景は、喜界島を育んできた美しい海に、島を支えるサトウキビ畑・点在する集落など、雄大な景色の中に喜界島の歴史や生活の営みを感じる事もでき、そんじょそこらの景勝地ではない喜界島の全てが詰まったオールインワンのスポットが「百之台」だと思います。正直、そのスケール感を言葉ですべて説明するのは、難しいので、是非、実際に見ていただくのが一番だと思います!! 島外のお客様を案内する時にも「百之台」は必ず紹介するスポットなんですが、全国の離島を視察や仕事で訪れている目の肥えた離島フリーク達の方々が、百之台を案内すると、去年の私と同じように「いままで見た事が無い！」と唸りながら、その絶景に見入っている姿を見るのが私の最近の楽しみの一つです!!

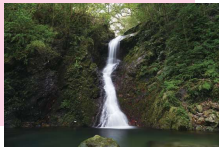
D

【文：喜界町地域おこし協力隊　喜界島観光物産協会　谷川理】

TOPIC

■天城岳松原登山道が開通しました

天城岳松原登山道が2022年3月に開通しました！なんと空港からわずか15分程度で世界自然遺産の価値の象徴である亜熱帯の森の魅力を体験できる歩道です。登山道にはマチャラの滝など個性のある3種類の滝が存在します。また、コースの終点にはオキナワウラジロガシ林が360°の空間で広がっており、亜熱帯の森の魅力を全身で感じることができます。目を閉じれば様々な鳥の鳴き声が聞こえ、運が良ければコース途中では徳之島の森の象徴であるアマミノクロウサギの糞やアマミハナサキガエルなどの希少な生き物を見ることができます。特に夏場はハブ・ブユなどの危険生物も多いので、訪れる際はしっかりとした服装で、十分気を付けてご利用ください。



■奄美大島世界遺産センターが住用町にオープン予定

世界自然遺産・奄美大島の価値について学べる施設です。映像や展示を通じて、実際にフィールドを探索するような気持ちで、いろいろな生きものに出会うことが出来ます！！今年7月下旬にオープン予定です。

※写真はイメージです。

■「拾い箱」も5周年！

与論島で一般社団法人E-Yoronの池田龍介さんや町役場が連携して、初めて海岸に「拾い箱」を設置したのも2017年3月のことでした。「拾い箱」とは、持ってきたごみを捨てるごみ箱ではなく、漂着ごみを「拾って入れる」ための箱です。今では島民や観光客にも少しずつ定着し、海ごみを拾ってくれる人が増えている様子。また、沖永良部島や喜界島でもこれを見習った取組が始まっているそうです。このような先進的な取組が、奄美群島国立公園全体でますます増えていくと良いですね。

奄美大島　A：加計呂麻島 武名のガジュマル／B：ハブ
喜界島　C：百之台／D：アダン
徳之島　E：喜念浜と闘牛の散歩／F：アマミノクロウサギ
沖永良部島　G：ケイビング／H：トゥール墓
与論島　I：百合が浜／J：サンゴ群